

ホリスティック企業レポート ディップ

2379 東証一部

アップデート・レポート
2015年10月30日 発行

一般社団法人 証券リサーチセンター



証券リサーチセンター
審査委員会審査済 20151027

ディップ (2379 東証一部)

発行日: 2015/10/30

インターネットを利用する総合求人情報サービス大手 主力サイトの掲載情報数の伸長と単価是正で業績好調続く

> 要旨

◆ 求人・求職情報事業と看護師紹介事業を展開

- ・ディップ(以下、同社)は、インターネットを利用した求人広告の掲載料と人材紹介料を収入源としている。
- ・アルバイトの「バイトル」と派遣の「はたらこねっと」、及び看護師人材紹介事業「ナースではたらこ」が同社の主力サイトである。

◆ 16年2月期上期は大幅営業増益

- ・16/2期第2四半期累計(以下、上期)決算は、前年同期比 36.7%増収、65.0%営業増益だった。掲載情報数の伸長と単価是正で、主力サイトの増収効果により増益となった。
- ・第1四半期決算公表時の修正予想に対しては、売上高 101.7%、営業利益 121.0%であった。利益の達成率の高さは、広告宣伝費等販売促進費の一部が下期に先送りされたため等である。

◆ 16年2月期の当期純利益予想を増額へ

- ・16/2期について同社は、第1四半期決算公表時の修正予想を据え置き、前期比 28.9%増収、同 24.9%営業増益を見込んでいる。
- ・証券リサーチセンター(以下、当センター)は、同社が特定同族会社の留保金課税対象から除外される見通しを踏まえ、税率負担の軽減を想定し、当期純利益のみ従来予想の 3,791 百万円から 3,960 百万円(同 38.7%増)に修正する。

◆ 投資に際しての留意点

- ・同社は 16/2 期の 1 株当たり配当金を前期比 3.4 円増配(分割修正後)の 19 円と計画している。
- ・当センターでは配当性向 30%程度であった過去の実績を勘案し、16/2 期の 1 株当たり配当金を 22 円と予想する。当センターは 17/2 期以降も増益基調の持続を見込んでおり、増配も続く予想する。

アナリスト: 松尾 十作

+81(0)3-6858-3216

レポートについてのお問い合わせはこちら

info@stock-r.org

【主要指標】

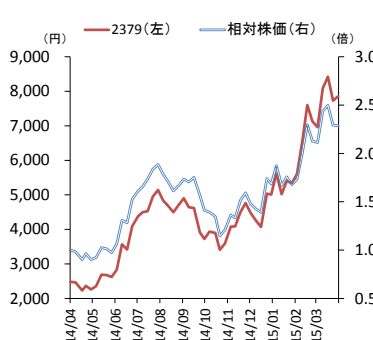
	2015/10/23
株価(円)	2,222
発行済株式数(株)	62,000,000
時価総額(百万円)	137,764

	前期実績	今期予想	来期予想
PER(倍)	43.1	31.1	23.9
PBR(倍)	18.6	12.7	10.1
配当利回り(%)	3.5	4.5	5.9

【株価パフォーマンス】

	1カ月	3カ月	12カ月
リターン(%)	0.5	39.7	246.6
対TOPIX(%)	-4.4	25.3	207.3

【株価チャート】



(注) 相対株価は対TOPIX、基準は2014/4/25

【2379 ディップ 業種: サービス業】

決算期	売上高 (百万円)	前期比 (%)	営業利益 (百万円)	前期比 (%)	経常利益 (百万円)	前期比 (%)	純利益 (百万円)	前期比 (%)	EPS (円)	BPS (円)	配当金 (円)
2013/2	9,142	-20.0	248	-69.1	233	-69.4	61	-83.7	1.1	62.7	1.6
2014/2	13,050	42.7	1,714	590.0	1,702	629.6	940	—	17.0	78.0	4.6
2015/2	19,530	49.7	4,806	180.3	4,817	182.9	2,856	203.7	51.6	119.4	15.6
2016/2 CE	25,174	28.9	6,004	24.9	6,001	24.6	3,367	17.9	60.8	—	19.0
2016/2 E	26,000	33.1	6,400	33.2	6,397	32.8	3,960	38.7	71.5	175.3	22.0
2017/2 E	32,500	25.0	8,300	29.7	8,297	29.7	5,140	29.8	92.8	219.8	28.0
2018/2 E	40,000	23.1	11,000	32.5	10,997	32.5	6,810	32.5	123.0	304.7	38.0

(注) CE: 会社予想、E: 証券リサーチセンター予想、15年9月1日を効力発生日として株式分割(1:5)、一株指標は期首に分割があったものとして算出

アップデート・レポート

2/10

本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。一般社団法人 証券リサーチセンターは、本レポートの配信に関して閲覧し投資家が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。最終投資判断は投資家個人においてなされなければならず、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家にあります。また、本件に関する知的所有権は一般社団法人 証券リサーチセンターに帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。

> 事業内容

◆ 求職・求人情報のインターネットサイトを運営

ディップ（以下、同社）は、インターネットを利用した求人情報の提供と人材紹介を主たる事業とし、アルバイト、派遣、契約社員、正社員、あるいは医療関係者などの特定の労働形態や職種などに応じて専用のサイトを設けている。

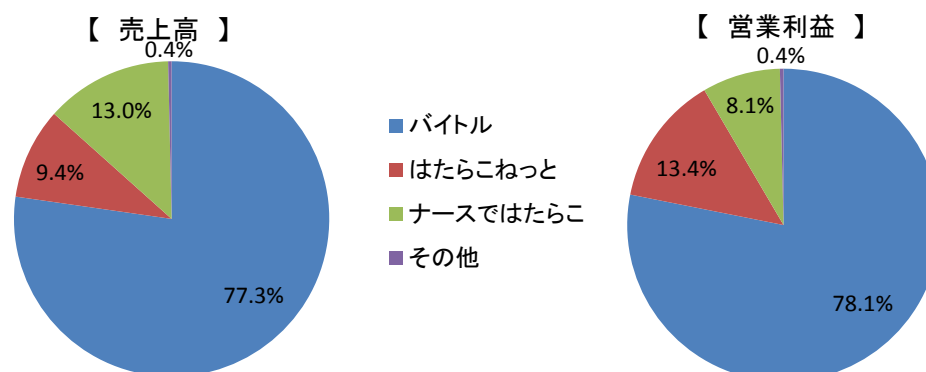
同社の事業はメディア事業とエージェンツ事業に分けられる。

メディア事業は求人広告事業であり、同社が運営するインターネット上の求人サイトに出稿する企業から受け取る求人情報掲載料が売上高となる。同社の主力サイトは「バイトル」、「はたらこねっと」の2つである。

「バイトル」は、アルバイト希望者と求人企業を結ぶ Web サイトで、15/2 期の売上構成比は 77.3%、営業利益構成比（調整額控除前、以下同様）は 78.1%に達する主力事業である。「バイトル」には、サブカテゴリとして、志向性の強いユーザーに向けた専門サイトや一企業に特化したサイトがある。専門サイトは、コンビニエンスストアのアルバイトに特化した「コンビニバイトル」、服飾販売に特化した「アパレルコレクション」、リゾート地での短期及び住み込みのアルバイトに特化した「リゾートバイトル」、工場系の仕事に特化した「工場バイトル」、ナイトワークに特化した「バイトルセレブ」等の 27 サイトである。

「はたらこねっと」は、派遣社員の求人情報を提供しており 15/2 期の売上構成比は 9.4%、営業利益構成比は 13.4%である。15/2 期より女性向けに派遣会社及び転職エージェンツの求人情報を集約した求人及び転職サイト「はたらこ index」の掲載が開始された。

【 図表 1 】 サイト別売上高及び営業利益構成（15/2 期）



(注) 営業利益は調整額控除前

(出所) ディップ決算説明会資料より証券リサーチセンター作成

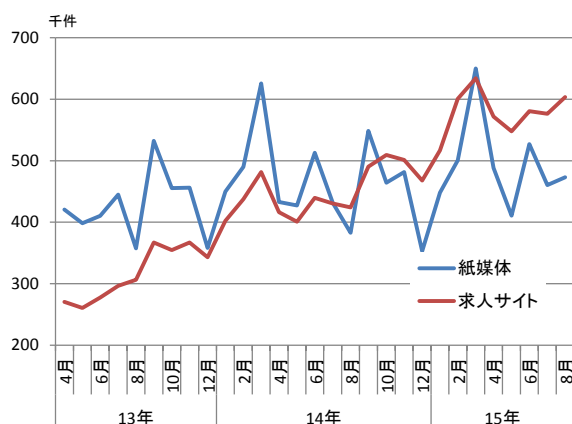
エージェンツ事業は、看護師専門の求人サイト「ナースではたらこ」を運営しており、人材紹介による成功報酬を収益とする事業である。具体的には、転職を希望する看護師及び准看護師に医療機関を紹介する窓口となるサイトを運営し、転職実現時に医療機関より仲介手数料を得ている。15/2 期の売上構成比は 13.0%、営業利益構成比は 8.1% である。当該事業への参入は 09 年で、同社は後発企業である。

> 業界動向

◆ 求人サイト需要高まる

13 年 4 月から 15 年 8 月迄の求人広告件数の推移をみると、インターネット上の求人サイトの広告件数が増加しており、14 年 10 月以降、求人サイトの広告件数が紙媒体全体（有料求人情報誌、フリーペーパー、折込求人紙）のそれを上回っている（図表 2）。スマートフォンなどで最新情報が閲覧できる利便性が求人者に重宝がられているからと思われる。パートタイムの有効求人倍率（季節調整値）も、右肩上がりが続いている（図表 3）。労働需給のタイト化が広告件数の増加（特に求人サイト）をもたらしていると思われる。

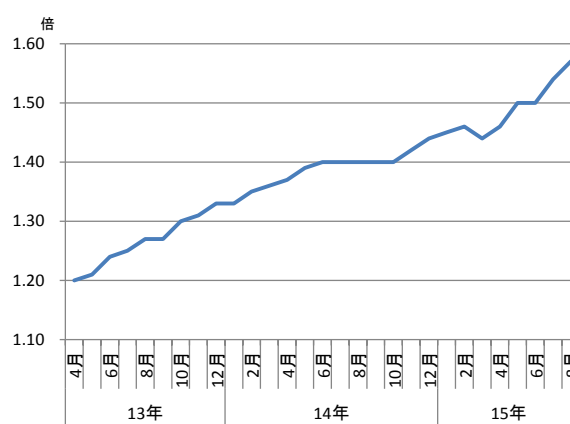
【図表 2】 求人広告件数推移



(注) 有効求人倍率は季節調整値

(出所) 図表 2 は全国求人情報協会の HP、図表 3 は厚生労働省 HP に掲載されたデータに基づき証券リサーチセンター作成

【図表 3】 パートタイムの有効求人倍率



> 強み・弱みの分析

◆ SWOT 分析

同社の内部資源（強み・弱み）及び外部環境（機会・脅威）の状況を整理すると図表 4 のようにまとめられると証券リサーチセンター（以下、当センター）では考えている。

【 図表 4 】 SWOT 分析

強み (Strength)	・業界トップの知名度と実績、運営するサイトの高い評価 ・主要サイトの豊富な情報量 ・閲覧者から高い支持を受けているサイトのユーザビリティ ・収益性が高く、財務体質も健全
弱み (Weakness)	・特定人物（社長）への依存が大きい ・経済環境及び労働需要に収益が左右されやすい ・単一事業に対する依存度が高いこと
機会 (Opportunity)	・労働市場の流動化、転職市場の拡大 ・企業が多種多様な労働形態を用意し、状況によりアウトソーシングする流れ
脅威 (Threat)	・競争激化 ・労働関連に関する法律などの改正、新規の関連法律の施行 ・業界大手との価格競争による収益力低下懸念

(出所) 証券リサーチセンター

同社のサイトの強みは、写真や文章に加え、職場の雰囲気や実際に働いているスタッフの姿を動画で見ることができることや、応募の状況が分かるように 5 段階のバロメーター表示をしていること等にある。

同社の成長性の高さは、過去 5 期の売上高の年平均成長率が 19.6% であることにあらわれている。また、売上高営業利益率は 24.6% (15/2 期) と高く、借入金はなく、自己資本比率は 60.0% (15/2 期末) と高い。

他方、売上高及び利益の両面でアルバイトの仕事を紹介する「バイトル」への依存度の高さが弱みとして挙げられる。

> ESG活動・分析

◆ 環境対応 (Environment)

同社は環境方針を策定していない。なお、同社が手がけている「インターネットによる求職及び求人のマッチング」というビジネスは、それ自体がペーパーレスで環境保全に資する事業と考えることができる。

◆ 社会的責任 (Society)

同社は、社員のボランティア活動を支援する「ボランティア活動サポートプログラム」や子供のいる従業員も安心して長く働ける「チャイルドケア・サポートプログラム」等を設けている。

15 年 3 月に、「ナースではたらこ」が職業紹介優良事業者に認定され

た。厚生労働省は経営の安定性、法令の遵守、業務の適正運営等の認定基準に沿い、職業紹介優良事業者を認定しており、14年度の認定事業者は27社であった。優良事業者の認定は、求人企業にとって人材紹介事業者を選択する際に重視されるものと思われる。

◆ 企業統治 (Governance)

同社の取締役は社外取締役2名を含む7名、監査役は4名である。社外取締役の1名はヴァイセコーポレーション及び社会人材コミュニケーションズの代表取締役等を兼任している野田 稔氏、もう1名は清水 達也氏で、DEiBA Company (デアイバカンパニー) 代表取締役である。

> 決算概要

◆ 16年2月期上期は営業大幅増益

16/2期第2四半期累計(以下、上期)決算は、売上高12,372百万円(前年同期比36.7%増)、営業利益2,923百万円(同65.0%増)、経常利益2,927百万円(同65.1%増)、純利益1,825百万円(同91.3%増)であった。雇用情勢の改善、積極的な広告宣伝活動等により大幅増収、増益を達成した。

第1四半期決算発表と同時に修正された業績予想(以下、修正予想)に対する達成率(図表5の達成率C/B)は、売上高101.7%、営業利益121.0%であった。修正予想に対する営業利益の達成率が高いのは、修正予想で想定した広告宣伝費等販売促進費の一部が下期に先送りされたこと等のためである。

また期初予想、修正予想に対する純利益の達成率が高いのは税率負担の軽減によるものである。現代表取締役である富田英輝氏と富田氏の資産管理会社であるEKYT社を合わせた議決権比率は、信託銀行との株式処分契約により、16年2月10日までに現在の52.5%から47.4%に低下する見込みである。これにより、特定同族会社の留保金課税対象から同社が除外される見通しのため、税負担を軽減見込みとした。なお、15/2期における留保金課税額は102百万円であった。

【図表5】16年2月期上期決算概要

	期初予想	修正予想	実績	前年同期比	達成率*1	達成率*2
	(A)	(B)	(C)		(C/A)	(C/B)
売上高	11,486	12,161	12,372	36.7%	107.7%	101.7%
営業利益	1,912	2,416	2,923	65.0%	152.9%	121.0%
経常利益	1,911	2,414	2,927	65.1%	153.2%	121.3%
純利益	1,058	1,359	1,825	91.3%	172.5%	134.3%

(注) 修正予想(B)は、第1四半期決算公表時のディップ予想

(出所) 決算短信及びディップニュースリリースより証券リサーチセンター作成

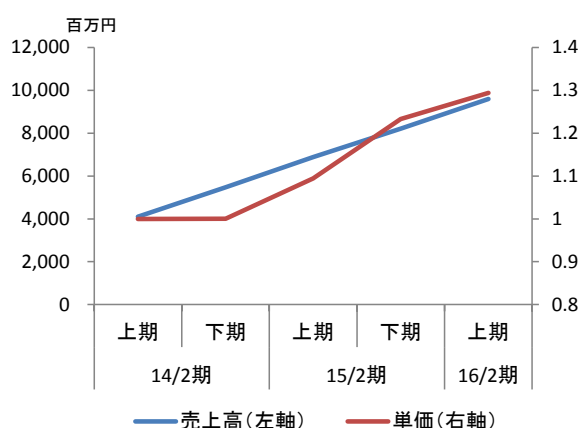
主要サイト別でみると、「バイトル」は、売上高 9,591 百万円（前年同期比 39.4%増）、営業利益 3,085 百万円（同 68.6%増）であった。月間平均契約社数は 7,764 社（同 16.5%増）、同掲載情報数は 84,890 件（同 17.9%増）と伸長した。掲載情報数の伸長率より増収率が高いのは、応募者数増を背景に受注価格の是正が進んだためである（図表 6）。

「はたらこねっと」は、売上高 1,294 百万円（前年同期比 61.9%増）、営業利益 540 百万円（同 61.5%増）であった。月間平均契約社数は 1,015 社（同 10.1%増）、月間掲載情報数が 40,684 件（同 20.4%増）と伸長した。「はたらこねっと」においても受注価格の是正が進み、増収率が掲載情報数の伸長率を上回った（図表 7）。

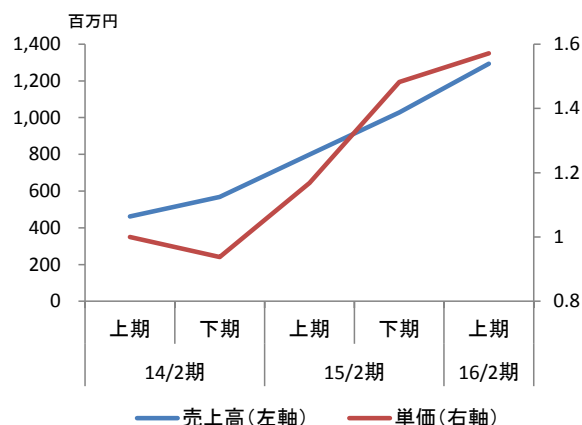
エージェント事業である「ナースではたらこ」は、売上高 1,461 百万円（前年同期比 9.6%増）、営業利益 289 百万円（同 20.7%減）であった。主な減益要因は、同事業の営業担当に相当するキャリアアドバイザーを増員したことによる固定費負担の増加である。

売上総利益率は、バイトル、はたらこネットの貢献によるメディア事業が牽引役となり、前年同期比 0.9%ポイント上昇の 91.6%となった。販売費及び一般管理費（以下、販管費）の対売上高比率は同 3.1%ポイント低下の 68.0%であった。販管費で構成比の大きい販売促進費を含む広告宣伝費は 3,570 百万円（前期比 32.5%増）で、対売上高比率は同 0.9%ポイント低下の 28.9%となった。以上の結果、売上高営業利益率は同 4.0%ポイント改善し 23.6%となった。

【 図表 6 】 バイトルの売上高と単価推移



【 図表 7 】 はたらこネットの売上高と単価推移



(注) 図表 6 及び 7 とともに 14/2 期上期の単価を 1 とした場合の半期別掲載情報単価推移

(出所) ディップ決算説明資料より証券リサーチセンター作成

> 業績見通し

◆ ディップの16年2月期予想

16/2 期業績について同社は、第1四半期決算公表時に修正した売上高 25,174 百万円（前期比 28.9%増、期初予想 24,500 百万円）、営業利益 6,004 百万円（同 24.9%増、同 5,500 百万円）、経常利益 6,001 百万円（同 24.6%増、同 5,497 百万円）、当期純利益 3,367 万円（同 17.9%増、同 3,071 百万円）を据え置いている。

サイト別の業績予想は開示されていない。上期は、特定同族会社の留保金課税対象から同社が除外されたことから税負担の軽減が図られたものの、通期予想では考慮されていない模様である。

16/2 期下期の新たな施策は、次の通りである。

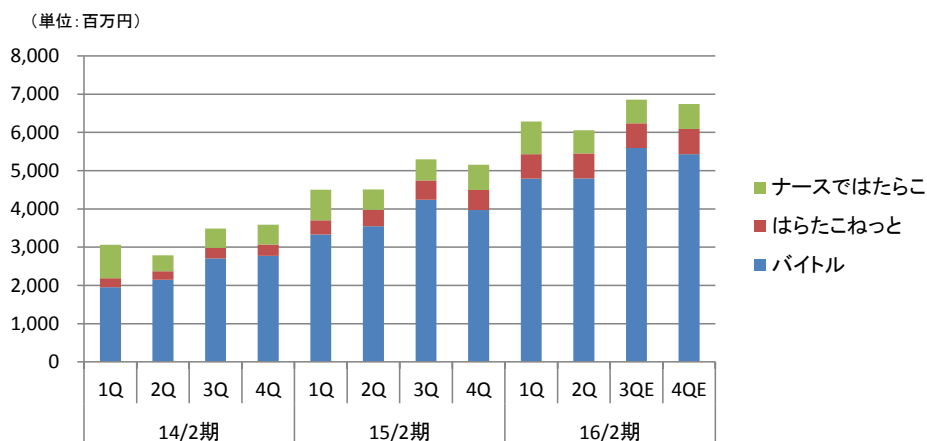
1. 営業体制強化のため、15 年春の新卒入社 300 名に加え、16 年春新卒採用も 300 名以上を予定しており、今後も営業拠点数の増設を計画している。16/2 期の上期には 6 カ所増加したが、17/2 期以降の従業員数増に備え 16/2 期下期に更に数カ所開設する可能性もある。
2. パートタイムの希望者と求人企業を結ぶ専門サイトである「パートバイトル」に注力している。「パートバイトル」は 14 年 10 月から開始されたサイトである。総務省調査^注によれば、アルバイトの雇用者数 398 万人に対し、パートタイムの雇用者数は 962 万人と倍以上の規模に達している。全国のイオン 170 店舗のレジ付近のディスプレイにて「バイトル」の CM を 15 年 12 月末まで放映している。こうしたプロモーションの結果、「主婦及び主夫」の 15 年 6 月から 8 月迄の応募数は、前年同期比 40%以上の増加率で推移している模様である。
3. 顧客と求人閲覧者双方の正社員及び契約社員のニーズに応えるべく、社員求人サイトである「バイトル社員」のサイトの充実を図っている。16/2 期上期の売上高は、前年同期比 83.4%増で推移した。

注) 総務省調査
総務省統計局の「労働力調査平成 27 年 1 月～3 月平均」によるデータである。

◆ 証券リサーチセンターの16年2月期予想

当センターの 16/2 期業績予想は、売上高 26,000 百万円（前期比 33.1%増）、営業利益 6,400 百万円（同 33.2%増）、経常利益 6,397 百万円（同 32.8%増）、当期純利益 3,960 百万円（同 38.7%増）と予想する。前回予想（15 年 5 月）と異なるのは、同社が特定同族会社の留保金課税対象から除外されたことを踏まえ、当期純利益を前回予想の 3,791 百万円（同 32.7%増）から増額修正したためである。

【 図表 6 】 四半期別媒体別売上高推移



(注) E は証券リサーチセンター予想

(出所) ディップ決算説明資料より証券リサーチセンター作成

総売上高の予想は据え置いたが、主要サイト別の予想売上高は 16/2 期上期の実績を踏まえ、以下の通りに見直した。「バイトル」については 20,615 百万円（前期比 36.6%増、前回予想 20,970 百万円）、「はたらこねっと」については 2,604 百万円（前期比 42.5%増、同 2,250 百万円）、「ナースではたらこ」については 2,731 百万円（前期比 7.3% 増、同 2,750 百万円）と予想する（図表 6）。

同社が保守的な予想を公表し、期中に業績の上方修正を行う傾向があるのに対し、当センターは足元の勢い及び景況感を反映させて売上高を予想していることが同社予想との相違点と言える。

> 中期見通し

◆ 証券リサーチセンターの中期見通し

同社は中期経営計画を公表していない。当センターでは 16/2 期予想を踏まえ、前回レポートの中期業績予想については、当期純利益のみ修正した。18/2 期は売上高 40,000 百万円（15/2 期から 18/2 期までの平均成長率 27.0%）、営業利益 11,000 百万円（同 31.8%）と予想する。

主要サイト別の主力サイトである「バイトル」の平均成長率は年率 31.1%としている。留意すべき点は従業員数である。新卒採用は 14 年春 134 名、15 年春 300 名であったが、16 年春も 300 名以上を検討している模様である。他方、足元の新人の離職率は前年同期をやや上回る推移であることから、人件費等固定費の想定は変更していない。

【図表 8】証券リサーチセンターの中期業績予想

(単位：百万円)

	15/2期実績	旧16/2期E	16/2期E	旧17/2期E	17/2期E	旧18/2期E	18/2期E
売上高	19,530	26,000	26,000	32,500	32,500	40,000	40,000
メディア事業	16,985	23,250	23,269	29,600	29,600	36,950	36,950
バイトル	15,089	20,970	20,615	26,970	26,970	33,970	33,970
はたらこねっと	1,827	2,250	2,604	2,600	2,600	2,950	2,950
その他	69	30	50	30	30	30	30
エージェント事業	2,545	2,750	2,731	2,900	2,900	3,050	3,050
売上総利益率	90.5%	90.4%	90.4%	90.5%	90.5%	90.5%	90.5%
販売費及び一般管理費	12,871	17,100	17,100	21,116	21,116	25,205	25,205
(対売上高比)	65.9%	65.8%	65.8%	65.0%	65.0%	63.0%	63.0%
広告宣伝費	5,132	6,760	6,760	8,450	8,450	10,400	10,400
(対売上高比)	26.3%	26.0%	26.0%	26.0%	26.0%	26.0%	26.0%
営業利益	4,806	6,400	6,400	8,300	8,300	11,000	11,000
(対売上高比)	24.6%	24.6%	24.6%	25.5%	25.5%	27.5%	27.5%
経常利益	4,817	6,397	6,397	8,297	8,297	10,997	10,997
(対売上高比)	24.7%	24.6%	24.6%	25.5%	25.5%	27.5%	27.5%
当期純利益	2,856	3,791	3,960	4,910	5,140	6,510	6,810
(対売上高比)	14.6%	14.6%	15.2%	15.1%	15.8%	16.3%	17.0%

(出所) 証券リサーチセンター

> 投資に際しての留意点

◆ 配当性向 30%程度を維持すると予想

同社は、14/2 期まで期末配当として年 1 回配当を行なってきたが、株主への利益還元の世界充実を唱え、15/2 期より上期末と期末の 2 回に分けて配当を行っている。同社は 16/2 期の 1 株当たり配当金を、上期分として支払済みの 9 円（分割修正後）を含めて 19 円と計画しており、同社予想利益に対する配当性向は 32.1%となる。

当センターでは同社が配当性向 30%程度を維持すると想定し、当センターの業績予想を踏まえ、16/2 期の 1 株当たり年間配当金は 22 円と予想する。当センターは 17/2 期以降も増益基調の持続を予想しており、配当性向 30%を基準に増配が続くと予想する。

証券リサーチセンターでは、同社を対象とするレポート発信を 12 年 4 月 4 日より開始いたしました。

初回レポートの発行から 3 年以上経過したことや、新興市場に新規上場した企業を中心に紹介してゆくという当センターの設立趣旨に則り、同社についてのレポート発信は、今回を以て終了とさせていただきます。

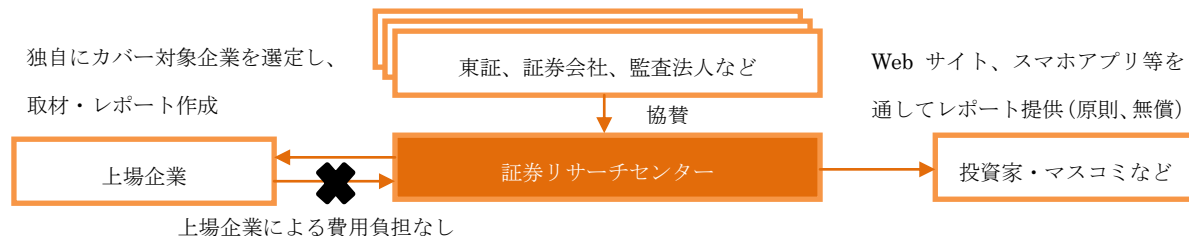
ホリスティック企業レポート(一般社団法人 証券リサーチセンター 発行)

ディップ (2379 東証一部)

発行日2015/10/30

証券リサーチセンターについて

証券リサーチセンターは、株式市場の活性化に向けて、中立的な立場から、アナリスト・カバーが不十分な企業を中心にアナリスト・レポートを作成し、広く一般にレポートを公開する活動を展開しております。



■ 協賛会員

(協賛)

東京証券取引所

SMBC 日興証券株式会社

大和証券株式会社

野村證券株式会社

みずほ証券株式会社

有限責任あずさ監査法人

有限責任監査法人トーマツ

新日本有限責任監査法人

優成監査法人

株式会社 ICMG

(準協賛)

三優監査法人

太陽有限責任監査法人

株式会社 SBI 証券

(賛助)

日本証券業協会

日本証券アナリスト協会

監査法人 A&A パートナーズ

いちよし証券株式会社

本レポートの特徴

「ホリスティック企業レポートとは」

ホリスティック企業レポートとは、証券リサーチセンターが発行する企業調査レポートのことを指します。ホリスティック企業レポートは、企業側の開示資料及び企業への取材等を通じて収集した情報に基づき、企業価値創造活動の中長期の持続可能性及び株価評価などの統合的分析結果を提供するものです

■ 魅力ある上場企業を発掘

新興市場を中心に、アナリスト・カバーがなく、独自の製品・技術を保有している特徴的な企業を発掘します

■ 企業の隠れた強み・成長性を評価

本レポートは、財務分析に加え、知的資本の分析手法を用いて、企業の強みを評価し、企業の潜在的な成長性を伝えます。さらに、今後の成長を測る上で重要な KPI (業績指標) を掲載することで、広く投資判断の材料を提供します

■ 第三者が中立的・客観的に分析

中立的な立場にあるアナリストが、企業調査及びレポートの作成を行い、質の高い客観的な企業情報を提供します

本レポートは、企業価値を「財務資本」と「非財務資本」の両側面から包括的に分析・評価しております

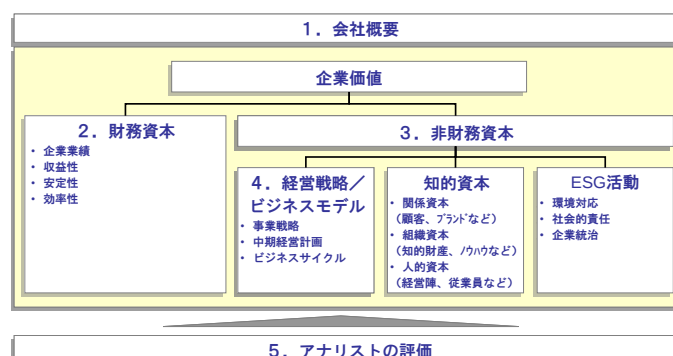
本レポートの構成

企業の価値は、「財務資本」と「非財務資本」から成ります。

「財務資本」とは、これまでに企業活動を通じて生み出したパフォーマンス、つまり財務諸表で表される過去の財務成果であり、目に見える企業の価値を指します。

それに対して、「非財務資本」とは、企業活動の幹となる「経営戦略／ビジネスモデル」、経営基盤や IT システムなどの業務プロセスや知的財産を含む「組織資本」、組織の文化や意欲ある人材や経営陣などの「人的資本」、顧客との関係性やブランドなどの「関係資本」、社会との共生としての環境対応や社会的責任などの「ESG 活動」を指し、いわば目に見えない企業の価値のことを言います。

本レポートは、目に見える価値である「財務資本」と目に見えない価値である「非財務資本」の両面に着目し、企業の真の成長性を包括的に分析・評価したものです。



指標・分析用語の説明

■ PER (Price Earnings Ratio)

株価を1株当たり当期純利益で除したもので、株価が1株当たり当期純利益の何倍まで買われているのかを示すものです

■ PBR (Price Book Value Ratio)

株価を1株当たり純資産で除したもので、株価が1株当たり純資産の何倍まで買われているのかを示すものです

■ 配当利回り

1株当たりの年間配当金を、株価で除したもので、投資金額に対して、どれだけ配当を受け取ることができるかを示すものです

■ ESG

Environment : 環境、Society : 社会、Governance : 企業統治、に関する情報を指します。近年、環境問題への関心や企業の社会的責任の重要性の高まりを受けて、海外の年金基金を中心に、企業への投資判断材料として使われています

■ SWOT 分析

企業の強み (Strength)、弱み (Weakness)、機会 (Opportunity)、脅威 (Threat) の全体的な評価をSWOT分析と言います

■ KPI (Key Performance Indicator)

企業の戦略目標の達成度を算するための評価指標 (ものさし) のことです

■ 知的資本

顧客関係や業務の仕組みや人材力などの、財務諸表には表れないが、財務業績を生み出す源泉となる「隠れた経営資源」を指します

■ 関係資本

顧客や取引先との関係、ブランド力など外部との関係性を示します

■ 組織資本

組織に内在する知財やノウハウ、業務プロセス、組織・風土などを示します

■ 人的資本

経営陣と従業員の人材力を示します

免責事項

- ・本レポートは、一般社団法人 証券リサーチセンターに所属する証券アナリストが、広く投資家に株式投資の参考情報として閲覧されることを目的として作成したものであり、特定の証券又は金融商品の売買の推奨、勧誘を目的としたものではありません。
- ・本レポートの内容・記述は、一般に入手可能な公開情報に基づき、アナリストの取材により必要な補充を加え作成されたものです。本レポートの作成者は、インサイダー情報の使用はもとより、当該情報を入手することも禁じられています。本レポートに含まれる情報は、正確かつ信頼できると考えられていますが、その正確性が客観的に検証されているものではありません。また、本レポートは投資家が必要とする全ての情報を含むことを意図したものではありません。
- ・本レポートに含まれる情報は、金融市場や経済環境の変化等のために、最新のものではなくなる可能性があります。本レポート内で直接又は間接的に取り上げられている株式は、株価の変動や発行体の経営・財務状況の変化、金利・為替の変動等の要因により、投資元本を割り込むリスクがあります。過去のパフォーマンスは将来のパフォーマンスを示唆し、または保証するものではありません。特に記載のないかぎり、将来のパフォーマンスの予想はアナリストが適切と判断した材料に基づくアナリストの予想であり、実際のパフォーマンスとは異なることがあります。したがって、将来のパフォーマンスについては明示又は黙示を問わずこれを保証するものではありません。
- ・本レポート内で示す見解は予告なしに変更されることがあり、一般社団法人 証券リサーチセンターは、本レポート内に含まれる情報及び見解を更新する義務を負うものではありません。
- ・一般社団法人 証券リサーチセンターは、投資家が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても一切責任を負いません。最終投資判断は投資家個人においてなされなければならない、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家にあります。
- ・本レポートの著作権は一般社団法人 証券リサーチセンターに帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。